

進化政治学と戦争

自然科学と社会科学の統合に向けて

伊藤隆太 (広島大学大学院人間社会科学研究科助教) 著

A 5判ソフトカバー342頁 本体 2,800円 ISBN978-4-8295-0821-3

気鋭の若手研究者が政治学に新たな切り口を提示した
『進化政治学と国際政治理論』(芙蓉書房出版) に続く第2弾

- ◆なぜ指導者はしばしば過信に陥り、非合理的な戦争を始めるのか？
- ◆なぜ人間は自己の命を犠牲にして、自爆テロを試みるのか？
- ◆なぜ第三世界の独裁者は瀬戸際外交の一環としてリスクを負ってでも核武装を目指すのか？

——こうした合理的アプローチでは説明できない逸脱事象の原因を「進化政治学」の視点で科学的に分析
既存の安全保障研究では見逃されていた興味深い知見を提供

伊藤 隆太 (いとう りゅうた)
広島大学大学院人間社会科学研究科助教、博士(法学)。
2009年慶應義塾大学法学部政治学科卒業。同大学大学院法学研究科前期および後期博士課程修了。同大学大学院研究員および助教、日本国際問題研究所研究員を経て今に至る。戦略研究学会編集委員・書評小委員会副委員長、国際安全保障学会総務委員、コンシリエンス学会会長。政治学、国際関係論、進化学、歴史学、哲学、社会科学方法論など学際的研究に従事。主な研究業績には、『進化政治学と国際政治理論——人間の心と戦争をめぐる新たな分析アプローチ(芙蓉書房出版、2020年)がある。

人間行動に関する
新たな進化論的なモデル
「進化行動モデル」を構築する

人間には戦争をする
本性が備わっている
これを体系的に明らかにする
「戦争適応仮説」を提示する

序章	進化政治学と社会科学の科学的発展
第1章	進化政治学を再考する
第2章	進化行動モデル ——人間行動を理論化する
第3章	進化的リアリズム ——進化政治学に基づいたリアリズム
第4章	戦争の原因とその進化——戦争適応仮説
第5章	戦争適応仮説に想定される批判
終章	人間の本性を踏まえた平和と繁栄にむけて

進化政治学 (evolutionary political science) とは

1980年代の米国政治学界で生まれた概念。進化心理学を中心とする進化論的視点から政治現象を分析する手法で、欧米では最先端だが、外交史研究が主流な日本ではほぼ皆無ともいえる状況。科学哲学の科学的实在論、進化心理学、脳科学、歴史学といった諸分野の知見を総動員し、新たな進化政治学に基づいたリアリスト理論を構築する。

10月下旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 10月4日(月) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行	芙蓉書房出版	注文数	注文者
進化政治学と戦争	10月新刊 本体 2,800円	部	
【既刊】進化政治学と国際政治理論	本体 3,600円	部	